

## <最近の脳梗塞の治療について>

### 【はじめに】

脳血管疾患は、昔は「中風」(ちゅうふう)と呼ばれていた病気で、脳血管の破綻によっておこり、発症すると後遺症のために介護を要する場合や死にいたることのある病気です。そして、現在でも日本の死因統計では悪性新生物(癌)、心疾患に次ぐ第3位の疾患で、平成23年 厚生労働省患者調査では123.5万人が罹患しています。さらに介護を要する原因として最も多い疾患でもあります。その脳血管疾患の約7割を占める脳梗塞の治療が近年変わってきています。2005年10月に、発症から3時間以内に限って使用を認められていた作用の強い血栓溶解薬t-PA(アルテプラゼ)が2012年8月31日から、発症から4.5時間まで使用可能となりました。最近の脳梗塞の治療について紹介します。

### 【脳梗塞の原因と病態】

脳梗塞は脳血管が閉塞しておこる病気です。脳動脈自体の動脈硬化による閉塞や心臓などから遊離した血栓による二次的な閉塞などが主たる原因となります。脳血管が閉塞すると、脳に酸素や栄養が送られなくなり、短時間で神経細胞が壊死してしまいます。壊死した部位の周りには壊死寸前ではあるけれども、血流を再開させると回復出来る部分が存在しますが、血流が途絶えたままの状態が続けば壊死の範囲は時間とともに拡大し、症状が悪化していきます。

### 【脳梗塞に対する血栓溶解療法と血管内治療】

脳梗塞の発症直後は、早期に血流を再開させ、壊死する神経細胞を最小限に食い止めることが最も大切なことで、この段階での治療効果が後遺症の程度に大きく影響します。その血流再開のための治療法のひとつがt-PAによる血栓溶解療法です。t-PAは血管を閉塞させた血栓を溶かして血流を再開させ、症状を改善させます(図1)。実際にt-PA投与により閉塞した脳血管が再開通し、症状が完全に消失した例のMRA画像を図2に示します。t-PA投与例の約3割にこのような改善を認めます。

しかし、従来の抗血栓薬に比べ、t-PAは作用が強力である分、出血性合併症が起きる可能性が高まるため、投与は慎重に行う必要があります。血栓溶解療法の適正治療指針に定められた、治療の適応、薬剤の投与量・方法、治療開始までの対応や治療を行う施設の条件等を遵守する必要があります。この治療を受けられる方は、まだ少ないのが現状です。

そんな中、治療経験の集積と国内外で示された様々なエビデンスが認められ、当初は発症3時間以内に限られていたt-PAが、2012年8月31日からは発症から4.5時間まで延長して使用可能になりました。これまで発症時間だけで適応外とされていた方にも治療の範囲が拡大し、その恩恵を受ける人が増えることが期待されます。

図1

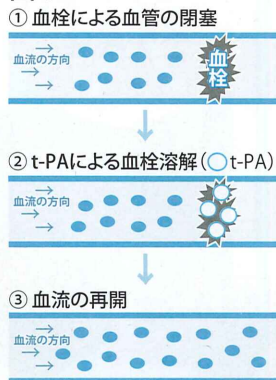
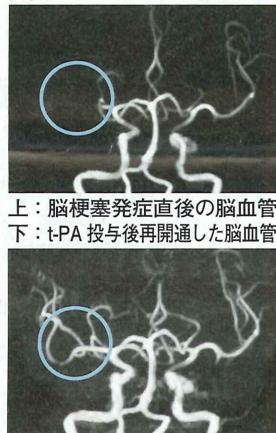


図2



上: 脳梗塞発症直後の脳血管  
下: t-PA投与後再開通した脳血管

そして、血流再開のためのもうひとつの治療にカテーテル治療(血管内治療)があります。t-PA使用の適応外あるいはt-PAが無効な脳主幹動脈閉塞症例に対してカテーテルを直接閉塞血管まで到達させ、局所で血栓を溶解させる方法や血栓を直接回収する方法で、この数年で一定の成果を上げてきています。

血管内治療にも劇的な効果がある一方で血管損傷や再開通後の出血性合併症の危険があるため、治療は、血管内治療の訓練を十分に受けた医師のいる施設で行う必要があります。

このように脳梗塞超急性期の治療は、近年急速に進歩してきていますが、発症直後から専門的な判断、治療技術とその間の集中治療が必要とされ、現時点では、まだ、どの病院でも可能なものとはなっていません。脳卒中の症状で倒れたら、救急車を呼んで出来るだけ早く専門施設に搬送してもらうことが大切です。

### 【脳梗塞の症状】

どのような症状の時に脳梗塞を疑わないといけいないのか、発症した場合の代表的な症状を以下に示します。

- ・意識障害  
会話の内容が少しおかしいというものから昏睡状態まで程度は様々です。
  - ・言語障害  
口や舌の運動障害のために起こるろれつ困難や言葉が出ない或いは言葉が理解できないなどコミュニケーションがとれない状態などがあります。
  - ・運動麻痺  
よく見られる症状で、障害された脳と反対側の手足の麻痺が見られます。しばしば顔面麻痺を伴います。
  - ・感覚障害  
運動麻痺のある部位のしびれ感や感覚が鈍くなるといった症状です。
  - ・頭痛、嘔吐  
脳の浮腫(むくみ)のため頭蓋内圧が上昇することによって起こる症状で生命に危険が及ぶことがあり注意が必要です。
- その他にも視力・視野障害、めまいなどが突然起こることがあります。

### 【脳梗塞の予防】

治療法は進歩していますが、依然として重い症状が残ることが多いため、脳梗塞は発症や再発の予防に努めることが大切です。脳梗塞の多くは動脈硬化が原因となっており、動脈硬化を促進するものが危険因子として知られています。高血圧、高脂血症や糖尿病は動脈硬化を促進する因子ですが、その他に、不整脈、飲酒、脱水や脳卒中の家族歴などが危険因子として知られています。危険因子には治療可能なものが多く、専門医による治療を受けていただくことで脳梗塞や脳出血を起こす確率を下げる事が出来ます。

### 【最後に】

血栓溶解療法が可能な時間は延長されましたが、治療開始までの時間が短いほど良好な治療効果が期待できます。脳梗塞と思われる発作で倒れた時には、自分たちで病院を探すのではなく、救急車で一刻も早く専門施設に搬送してもらう必要があることを忘れないようにして下さい。

また、軽い症状でも、脳梗塞の可能性が心配な時は、早いうちにMRI検査などを受けることで大きな発作の予防につながる場合があります。日頃からの体のケアには十分に気を付けて下さい。